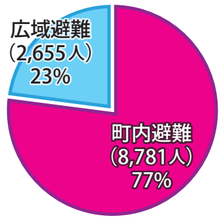
災害に対する備えはできていますか？

令和４年に明和町が行った「洪水時の避難先に関する調査」では、町外に避難することが可能と回答した方が全体の 20% 強しかおらず、ほとんどの方が町内での避難を考えている結果になりました。しかし、想定する最大規模の洪水が発生した場合、明和町のほとんどが浸水する結果が予想されており、また、町内の避難施設も避難希望する人数全員を受け入れることが難しい状況です。毎年のように各地で風水害の被害が頻発する昨今、もう一度自分たちの災害に対する備えをしっかりと見直してみませんか？



明和町「洪水時の避難先に関する調査」報告書より（令和４年２月）

明和町長
冨塚　基輔

近年、台風や豪雨などの自然災害が激甚化しています。令和元年東日本台風では、町で初めての避難指示を発令しましたが、皆さまの協力により、大きな被害を免れることができました。しかし、災害に備えるためには「自助・共助・公助」が不可欠です。町として避難場所の確保や防災備蓄品の充実に努めていますが、最も大切なのは、町民一人ひとりの備えと地域の助け合いです。この総合防災マップを活用し、皆さまが自分の命を守るための準備を整え、いざという時に冷静に行動できるよう心掛けてください。

群馬大学
大学院理工学府
教授
金井　昌信

私たちの住む日本は、毎年のように大きな地震や風水害が発生し、多くの方が被災しています。明和町はこれまで幸いにも大きな災害を経験していませんが、今後も『絶対に被災しない』わけではありません。巨大災害の発生に備えて、まずはこの防災マップを見て、『ご自宅に想定されている災害の危険性』を正しく理解してください。何を備えるべきかは、想定される被害の大きさと各家庭の状況によって異なります。地域の危険性を把握し、同居家族の状況を踏まえた『実行可能な身の守り方』を検討してみてください。

令和元年 東日本台風（台風第19号）を覚えていますか？

台風第19号は、令和元年10月12日から13日にかけて上陸・縦断し、東日本の広範囲で大きな被害をもたらしました。明和町として初めて「避難指示」を発令し、避難場所を開設。各避難場所には住民の４分の１以上の2,800人が避難しました。

10月13日 昭和橋下流の様子

写真提供：利根川上流河川事務所